

支部の強い要求で

母子C「分娩部、母性棟」などで 看護師を19名増



府立5病院の2011年度人員配置

前年度より72名増

3月10日、法人本部は2011年度の定数配置計画について、府立病院労組に対して提案を行いました。

内容は、5病院トータルで医師13名増、看護師34名増、診療放射線技師5名増、理学療法士3名増、法人事務職員41増(プロパー化等)など、2010年度定数より72名多い、3、370名の配置となっており、これは病院労組が求めてきた医師、看護師の増員をはじめ、医療技術者の増員要求が反映されています。特に母子センターの増員

に必要は3分の2を得るべくとなく否決されました。

また、府職労が反対し、継続審議になっていた環境農林水産総合研究所の独立行政法人化については維新の会・自民・民主の賛成で独立行政法人化へ移行が可決されました。府民要求連絡会や府営住宅削減反対連絡会が提出していた請願署名についてはいずれも不採択となりました。

護師増は支部が強く要求し増員を勝ち取りました。

母子センターの分娩部の定数は設立当初の2人夜勤の配置定数のまま。分娩件数、病床利用率とも右肩上がりになる中、病院当局に人員増の要求書を提出し、団体交渉に参加した看護師からは「ハイリスク分娩が多い中で数値のみで比較されるのは納得いかない。分娩部の夜勤2人は少なすぎ。準夜勤務で明け方まで働かなくてはならない。異

常な働かせ方とは思わないのか。ごはんも食べず、トイレも我慢し、ひたすら走っている現状を知ってほしい」「切迫早産等で分娩部から、経過を見に来ること

はある。それが相互サポートと言えるのか?事故が起こったら誰が責任をとるか、システムとしておかし」「正常分娩は放たらかしと妊婦さんに怒られるが看護を提供できる状況にない。助産師として情けないと思う事もしばしば。同期に会うと『いつ辞める?』が日常会話』など、涙ながらの訴えが続きました。

昨年度は母性棟からの応援で3人夜勤の体制になりましたが、病院当局は分娩部の定数増はしませんでした。このような中、引き続き要求し今年の4月から分娩部は準夜・深夜とも3人体制の定数になり、母性棟も人員増になりました。

厳しい情勢の中、職場のみんなが団結し、要求しつづけたことで、人員増を勝ち取りました。今後、手術室及びPICU(小児集中治療室)等の拡充など新棟が建設されますが、支部では引き続き、母子のいのちと健康を守り、人員増をはじめとした職場要求の実現に奮闘します。そのためにも、病院労組への加入を呼びかけていきます。

2月府議会閉会 修正案可決

成人病センターの移転関連 2億円削減

2月府議会が2月21日から3月15日までの予定で開催されていましたが、最終日の本会議等の時間が延び、3月16日に閉会しました。橋下知事が提案した2011年度予算案について、自民党などが提案した修正案を賛成多数で可決しました。維新の会は総務委員会で賛成しましたが、本会議では修正案に反対しました。橋下知事就任後、予算案が修正されるのは初めてのことです。修正されたのは「私学助成」と成人病



©大阪民主新報社

センターの移転関連予算です。私学助成では当初提案は私立学校の運営費補助の削減率25%を小中学校で50%に中学校で35%に削減する提案でしたが、修正案は小中学校・中学校ともに元の削減率25%に戻す修正でした。額にして1億円の増額となります。成人病センター移転関連については森ノ宮から大手前の府庁横への移転・建て替えするための関連予算2億円が削減されました。橋下知事は修正案可決を不服として審議をや

り直す「再議」を要求してきましたが、「再議」の可決は決まりました。府民要求連絡会や府営住宅削減反対連絡会が提出していた請願署名についてはいずれも不採択となりました。

今後とも府議会での福祉・医療・教育の低下を許さず府民生活の向上の立場での議論されることが求められています。

また、府職労が反対し、継続審議になっていた環境農林水産総合研究所の独立行政法人化については維新の会・自民・民主の賛成で独立行政法人化へ移行が可決されました。府民要求連絡会や府営住宅削減反対連絡会が提出していた請願署名についてはいずれも不採択となりました。

その後大きな余震が2回あり、揺れが収まるまで40分近くかかりました。

ゆっくりとした揺れであったが、だんだん揺れが大きくなっていきます。地震で揺れていると認識するまでしばらくかかりました。

地震時の被害 危険明らか

咲洲庁舎

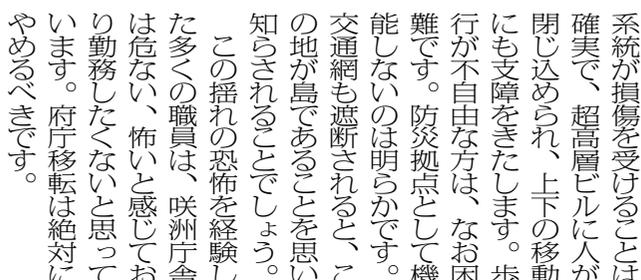
まず、震災被災者の方々に御見舞い申し上げます。パソコンに向かっていると目まいがしているのか?ふわふわし体調が悪くなったのか?何か変だと感じていると周りでも「揺れてないか」、「揺れているよな」と声が上がりました。これが噂のWTCビルが風で揺れるというものか思ったのです。

「怖い」「このビルにはおれん」「大手前に帰ろう」と声が上がりました。仕事をするとこの気がまったくと聞かれました。後で聞かれましたが、気分が悪くなりとした人もいたそうです。

その後大きな余震が2回あり、揺れが収まるまで40分近くかかりました。

ゆっくりとした揺れであったが、だんだん揺れが大きくなっていきます。地震で揺れていると認識するまでしばらくかかりました。

ゆっくりとした揺れであったが、だんだん揺れが大きくなっていきます。地震で揺れていると認識するまでしばらくかかりました。

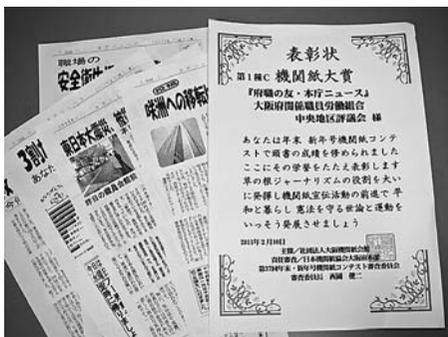


第37回年末・新年号機関紙コンテスト

日本機関紙協会大阪府本部主催

府職の友・本庁ニュース 機関紙大賞を受賞

日本機関紙協会大阪府本部主催の、第37回年末・新年号機関紙コンテストにおいて、「府職の友・本庁ニュース」が機関紙大賞をおさめました。



南海・東南海地震を思うとどんな目にあうのか考えただけでもぞっとします。耐震強化もされるようですが、建物本体は守られるのでしようが、建物内部やまっしてや中で働いている職員が守られるわけはありません。エレベーターや電気系統が損傷を受けることは確実に、超高層ビルに人が閉じ込められ、上下の移動にも支障をきたします。歩行が不自由な方は、なお困難です。防災拠点として機能しないのは明らかです。交通網も遮断されると、この地が島であることを思い知らされることでしょう。

この揺れの恐怖を経験した多くの職員は、咲洲庁舎は危ない、怖いと感じており勤務したくないと思っております。府庁移転は絶対にやめるべきです。